

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

報告日 令和7年11月25日

P T A名		静岡県立浜松聾学校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	28名				

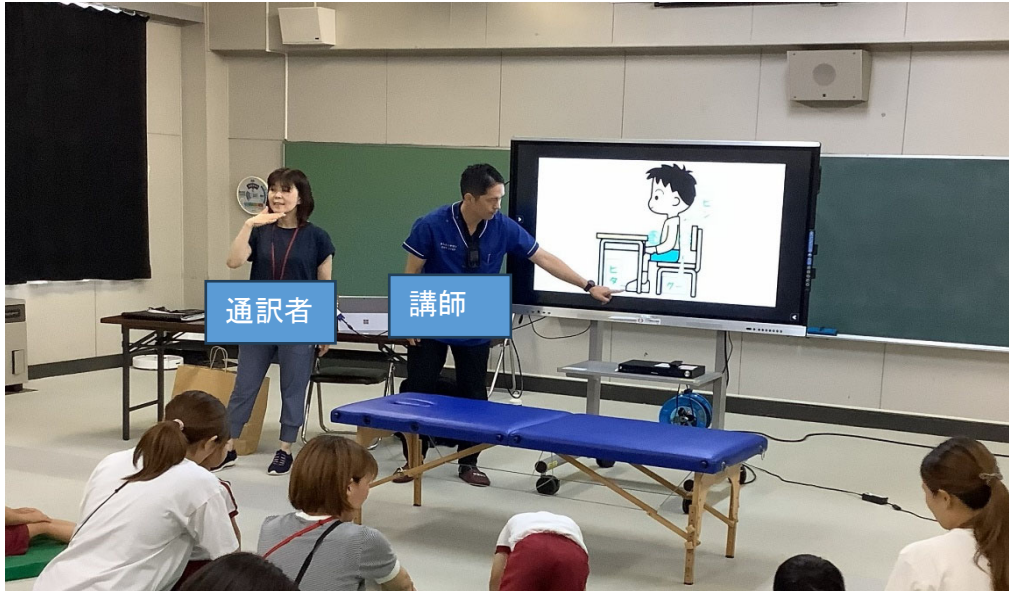
1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（ディスプレイ型）
使用学年及び人数	幼稚部6名 小学部13名 中学部9名
使用頻度	毎日
使用状況	<p>< 始業式・終業式・学部集会などでの活用 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に作成した資料の他、UDトークやロジャー等の機器と連携して、音声を文字化するなどして、聞こえを補う視覚情報を表示している。 ・学部や学校全体集会や外部専門家をゲストティーチャーとして行う学習等での活用がより増えた。 <p>< 各教科の授業での活用 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の活用や子どもの一人一台端末と連携し、投影した教材にタッチペンでポイントや解説を書き込んだり、友達の意見を一覧にして提示したり、視覚支援を活用した。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板は部屋を明るくしたまま見ることができるので、(従来のプロジェクターに比べて)手話やキューサインも見やすく、まだ画面と同時に話者も見ることができ、難聴者の学習環境に大変適している。 ・全学部が集合する儀式や集会などの発表の際には、音声を文字化することで、集中して話を聞きながらより正確に話の内容を理解をすることができる。 ・視覚支援を充実させた授業が展開できる。 ・据え置き電子黒板は、教師にとっても準備片付けに掛かる時間や手間が減り、児童生徒を見守る時間や接する時間ができたり、多忙化解消につながったりする。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の活用は、本校児童生徒の学習環境の充実にとっても効果があった。今後は一人一台端末との連携や自分の考えを表現する学習等にも活用し、学習を振り返ったり対話的な深い学びにつなげていったりするなど、活用の幅を広げていきたい。そのために、校内研修等で電子黒板の有効な活用方法などをとりあげていきたい。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数は減少しているが、今後デジタル教科書等も本格的な活用が始まるため、各学年の教室に一台設置するなどさらに環境を整え、より活用できる教員の指導力向上をすすめていく必要があると感じる。

2. 活用の様子

○ 学校保健委員会 「 姿勢講座 ～外部講師による学習～」

◇正しい姿勢のイラストを提示(視覚的支援)



◇重要ポイントを提示しながら、手本を示す

